

## 地域社会の発展に向けた取組

### 関連するサステナビリティ重要課題

- 商品・サービス提供を通じた社会的課題への対応
- 地域社会発展への貢献・協調関係の構築



「共存共栄」「相互扶助」の精神にもとづく生命保険会社として、地域のステークホルダーとの協調関係を築き、安心・安全で豊かな社会形成に事業活動や社会貢献活動を通じて貢献してまいりました。保険だけではカバーできない、人生100年時代を多様な面から支える様々な取組を通じて、更に日本生命の社会的役割を拡大してまいります。

#### 事業活動

- 地方自治体との連携取組
- 子育てと仕事の両立可能な社会の実現に向けた取組（子育て支援）

#### 社会貢献活動

- 日本生命の活動（ACTION CSR-V -7万人の社会貢献活動-）
- 公益財団法人による社会貢献活動
- グループ会社による社会貢献活動

# 地域の活性化に向けた取組

## ■ 地方自治体との連携取組

当社では、都道府県との「包括的連携協定」や、市町村とのがん対策や健康増進など個別項目に絞った「個別連携協定」等、官民協働を通じ、地域社会への貢献を目的とした取組を進めています。

とりわけ、「包括的連携協定」は38都道府県※と締結しました。包括的連携協定の締結後は、具体的な取組につなげており、例えば2020年度は、地域の観光・県産品振興の一環として自治体と協業したSNSキャンペーンを実施しました。

また、昨今のコロナ禍では、自治体からの要望を踏まえ非対面での情報発信に協力しています。当社職員がメールや郵送等を通じて、地域の方々にさまざまな情報を届けています。

※ 2021年7月末時点

### ▶ 「包括的連携協定」の詳細は[こちら](#)



右：井戸兵庫県知事 左：筒井会長（日本生命）



自治体と協業したSNSキャンペーンのビラ

# 子育てと仕事の両立可能な社会の実現に向けた取組(子育て支援)

女性の社会進出や共働き世帯の増加を背景に、保育の受け皿が全国的に不足し、待機児童問題が社会的課題となっています。

当社は、一般企業等や地域住民も含めた子育て世代の方々が、企業主導型保育所を活用できる環境を整備していくことで、待機児童問題の解決に貢献するとともに、女性の活躍推進を一層支えてまいります。

## ■ ニチイ学館との企業主導型保育所の全国展開

2017年4月からニチイ学館と協働で企業主導型保育所の全国展開を開始し、2021年には全都道府県90カ所での設置を完了。地域住民や企業従業員の方々に広くご利用いただいております。



## ■ 全国の企業主導型保育所と企業・従業員を繋ぐインフラを構築

企業主導型保育所領域における当社の貢献を一層進めるべく、安定稼働に悩む企業主導型保育所と保育所探しに悩む子育て世代の企業の従業員を仲介する取組を2020年1月より本社子会社のライフケアパートナーズにて展開しており、2021年8月までに約50社の企業と、約400カ所の保育所にご利用いただいております。提携する保育事業者大手のグローバルキッズとも協力しつつ、子育て支援領域における更なる展開を進めてまいります。また、当該サービスの拡充に向けて、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター やベネッセコーポレーションとも連携し、子育て世代に寄り添ったサービス展開の検討を進めてまいります。



## 社会貢献活動

日本生命の社会貢献活動は、お客様・社会のために活動するといった一貫した考えにもとづきつつも、その時々の社会環境の変化や課題に対応すべく、活動の幅を大きく広げてまいりました。生命保険業と親和性の高い「医療」、豊かな情操を育む「文化振興」、豊かな社会の未来を担う「児童・青少年の健全な育成」、世界的にも日本が先行している「高齢化問題」、そして次世代に引き継いでいく「環境」といった分野に長きにわたり取り組んでおります。

### <日本生命グループの社会貢献活動>

日本生命の活動  
ACTION CSR-V  
-7万人の社会貢献活動-

公益財団法人の活動

日本生命グループ各社の活動

▶ 日本生命グループの社会貢献活動の詳細についてはこちら（サステナビリティレポート～日本生命グループの社会貢献活動～）[7.3MB] 

### ■ 日本生命の活動（ACTION CSR-V -7万人の社会貢献活動-）

お客様や地域・社会のお役に立てる“人財づくり”を一層進めることで「親しみやすく、最も身近な生命保険会社」となるよう、約7万人の役員・職員が社会貢献活動に取り組む「ACTION CSR-V～7万人の社会貢献活動～」を開催しています。ACTION CSR-Vは「地域の信頼獲得」「魅力あふれる人財の育成」「職場の一体感醸成」を柱として取り組んでいます。

#### <日本生命らしさを活かした取り組み>

日本生命らしさを大切にした全社共通の社会貢献プログラムを用意しています。例えば、営業職員が日常的なFace-to-Face（フェイス トゥ フェイス）の活動の中で取り組めるような高齢者の見守りや自治体からの情報提供ビラの配布、生命保険の知識を活かしたライフプランの支え合いの仕組みを考える機会を提供する出前・受入授業の講師といったものです。

また、地域・社会を元気にしたいとの思いから、地元での定期的な清掃活動、全国各地で行われるイベントなどを行ってきました。

## 「出前授業」「受入授業」で子どもたちの未来を応援

### 全国の職員が講師となり、ライフデザインや支え合いの大切さを直接伝える

中学生・高校生を対象とした当プログラムは、子どもたちが自分自身の将来について考え、きり拓いていくことを応援したいとの思いで、2011年にスタートしました。「出前授業」では職員が学校を訪問し、「受入授業」では生徒が来社して、「ライフデザイン」「家計管理」「支え合い」などをテーマにした授業を行っています。当社のネットワークを活かして、全国の中学校・高校を対象に授業を行っています。



【参加者数】

10年間に  
686校  
68,121名

▶ 出前授業・受入授業の詳細、お申込みについて[1.2MB] □

## ご高齢者を見守る活動

### お客様とのFace-to-Faceのつながりを活かす

日々、地域の中でお客様のご自宅などに伺った際、郵便受けに新聞が溜まっている、夜になっても庭先に洗濯物が干してあるなどの異変があった場合、必要に応じて本人またはその家族への連絡や、市区町村窓口への通報などを行っています。また、高齢者の方々の振込詐欺被害防止に向け、警察本部等と連携し、お客様へ「振込詐欺防止ビラ」を配布するなど、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、様々な情報提供を行っています。



特殊詐欺防止パンフレット配布

## 日本生命所属選手によるスポーツ教室の開催

### 全国の子どもたちと直接ふれ合う

児童・青少年の健全育成とスポーツ振興への貢献を目的に、当社の野球部・女子卓球部に所属する選手たちが、子どもたちを対象にスポーツ教室を開催しています。北は北海道、南は九州・沖縄と、全国各地で開催しており、毎年4,000名前後の方々に参加いただいています。

【参加者数】

16年間に  
50,000名  
以上参加



野球教室



卓球教室

## “ニッセイの森”を通じた地球環境の保全

### 公益財団法人とのパートナーシップ

かけがえのない地球環境を次世代へ引き継ぐことを願い、公益財団法人ニッセイ緑の財団とともに、1992年から森づくりを開始しました。これまでに植えた苗木は137万本を超え、“ニッセイの森”は46都道府県203カ所にまで広がっています。苗木代や活動経費は、職員などからの寄付でまかなっており、この活動に職員がボランティアとして参加しています。

【参加者数】

29年間で  
延べ約39,000名  
が参加



## 次世代を社会で育む活動

### パートナーシップで次世代を応援

#### ・「子供の未来応援国民運動※1」の支援の輪に参加

全ての子どもたちが夢と希望をもって成長していくける社会の実現を目指し、子どもの貧困問題の解決に取り組む「子供の未来応援国民運動」に賛同し、各種支援に取り組んでいます。

#### 教育支援活動を行う団体との協働

子どもの貧困問題を解決するため、一般社団法人全国子どもの貧困・教育支援団体協議会は、各地域のNPOなどの団体の活動安定化に向けた支援プログラム※2を実施しています。

当社はこの活動を応援しています。



#### 寄付型自販機の設置

当社オフィスなどに「子供の未来応援基金寄付型自動販売機」を設置し、飲料の売上1本ごとに10円を「子供の未来応援基金」に寄付しています。



「子供の未来応援基金  
寄付型自動販売機」

\*1 推進事務局：内閣府、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人福祉医療機構

\*2 「教育支援団体個別支援プログラム supported by 日本生命」

#### ・「一般社団法人若草プロジェクト」の活動を支援

貧困・虐待・家庭内暴力・いじめ・育児ノイローゼなど、生きづらさを抱えた少女や若い女性たちへの支援として、2019年に、一般社団法人若草プロジェクトと包括協定を締結しました。その協定を通じて、若草プロジェクトと共に様々な所で若い女性をサポートしています。

#### まちなか保健室（東京・秋葉原）

若草プロジェクトが設置した「まちなか保健室※3」の認知向上に向け、その存在を少女たちに伝えるためのグッズを寄贈しています。



#### プロボノチームミーティングの風景

全国の当社職員から募集したボランティアによるプロボノ※4プロジェクトチームを立ち上げ、若草プロジェクトの業務運営効率化支援に取り組んでいます。



\*3 悩みを抱えた少女たちが気軽に立ち寄ることのできる、まちの中の保健室というコンセプトで設置されています。

\*4 プロボノとは、[社会的・公共的な目的のために職業上のスキルや専門知識を活かしたボランティア活動]を指します。

## < 地域での課題解決に向けた取り組み >

全社共通プログラムに加え、現在では、地域や社会の課題に向き合い、自主的に考えて社会貢献活動に取り組む部署や職員が増えています。

### | 外来植物除去でありのままの自然を守る

北海道根室市にある春国岱は、ラムサール条約登録湿地であり別名奇跡の島と呼ばれ、数千年をかけて堆積した砂の上に様々な植物が生い茂った、ありのままの自然がある珍しい島です。

そのような自然も放っておいては外来植物の影響を受ける可能性があります。道東支社では、在籍する職員が貴重な自然に暮らす生物の多様性を守ることを目的に保全活動に取り組んでいます。

年に一度、根室市ネイチャーセンターのサポートを受けながら活動湿原に侵入する外来種の除去を行っています。



### | 「健康アンケート」で県民の健康を応援

仙台支社では、地域のお客様をお守りするために、「宮城県民を守るんだプロジェクト」を展開しています。その中で、8万名を超える県民の方々に「健康アンケート」を実施し、健康意識や傾向をまとめました。その結果を県民の方々にお伝えすることで、地域の特性に応じた健康取り組みの推進を行っています。

個人版

法人版

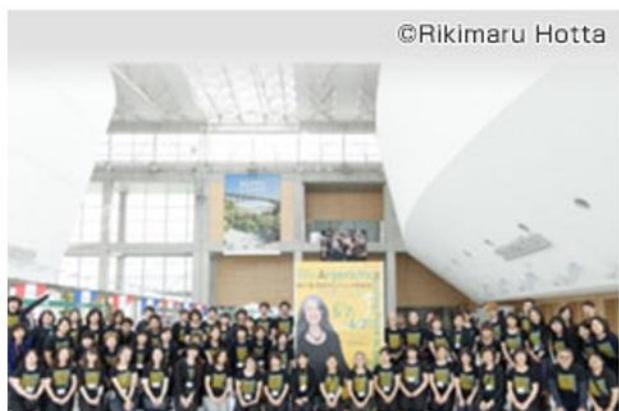
## がんで苦しむ方々へ、私たちができるることを

京都支社では、薬の副作用などで苦しむがん患者様に向けタオルで手作りした帽子を渡す活動を行っている「京都タオル帽子の会」主催の取り組みに参加し、タオル帽子を大学病院などへ寄付しました。



## 大規模イベント支援で地域を盛り上げる

全国に支社・営業拠点を置く当社は、各地域の振興は欠かせないものと考えており、地域の一員としてイベントの運営・盛り上げに協力しています。大分支社では、自治体が主導する特徴的なイベント運営に協力しています。世界的ピアニストの名を冠した音楽祭や、世界で初めての「車いすだけのマラソンの国際大会」といった、県で長年開催されている大規模なイベントの運営ボランティアに職員が参加しています。イベントの成功とともに、大分の名が全国にPRされることを目指しています。



©Rikimaru Hotta

## ■ 公益財団法人による社会貢献活動

日本生命が、「医療」「文化振興」「児童・青少年の健全な育成」「高齢化問題」「環境」の分野における課題により深く的確に取り組むために設立し、寄付を通じて活動を支援している公益財団法人においても、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

### 当社が設立した5つの財団

- ▶ (公財)日本生命済生会 [□](#)
- ▶ (公財)ニッセイ聖隸健康福祉財団 [□](#)
- ▶ (公財)ニッセイ文化振興財団 [□](#)
- ▶ (公財)ニッセイ緑の財団 [□](#)
- ▶ (公財)日本生命財団 [□](#)

## 公益財団法人 日本生命済生会

「済生利民(生命・生活を救済し、人々のお役に立つ)」を基本理念に、1924年に設立され、「日本生命病院」を運営しています。

「日本生命病院」は、現在27診療科、9診療センター、350床を有し、「大阪府がん診療拠点病院」や「地域医療支援病院」の指定を受けるなど、高いレベルの医療を提供しています。

また、人間ドック健診などを行う「ニッセイ予防医学センター」や在宅看護の「ニッセイ訪問看護ステーション」といった「予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービス」の提供により、健康寿命の延伸や地域の医療へ貢献しています。更に患者様や地域の方々を対象とした無料の「健康講座」や「ふれあいコンサート」、「夏休み子ども医療体験」など地域に根差した社会貢献活動にも取り組んでいます。

### 【取組詳細】

#### ■日本生命病院

(公財)日本生命済生会は、「済生利民※」を基本理念とし、1924年の設立以来、医療を通じた社会貢献に一貫して取り組んでいます。1931年に名門緒方病院の土地建物を継承し開院した「日生病院」は2018年4月に名称を「日本生命病院」と改め、元大阪府庁跡地に新築移転・開院しました。現在27診療科・9診療センター、350病床を有し、「大阪府がん診療拠点病院」や「地域医療支援病院」の指定を受ける等、高いレベルの医療を提供しています。更に、人間ドック検診などを行う「ニッセイ予防医学センター」や在宅看護の「ニッセイ訪問看護ステーション」といった「予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービス」の提供により、健康寿命の延伸や地域の医療へ貢献してまいります。

※ 生命や生活を救済し人々のお役に立つことを意味します。



日本生命病院外観

【日本生命病院】

2020年度  
入院患者数  
年間 約10万名  
外来患者数  
年間約23万名

【ニッセイ予防医学センター】

2020年度  
人間ドック受診者数  
年間約1万1千名  
定期受診者数  
年間約3万2千名



検診車

【無料・低額診療】

2020年度  
約3万6千名

【社会福祉施設での無料健診等】

2020年度  
22施設  
約960名

## 公益財団法人 ニッセイ文化振興財団

舞台芸術を通じた心豊かな社会づくりを目指して開場した日生劇場を中心に、優れた舞台芸術の提供・向上と芸術文化の振興に寄与するために、1973年に設立されました。

ご家族で本格的な舞台芸術に触れていただく「日生劇場ファミリー フェスティヴァル」や日本のオペラ振興を目指した「NISSAY OPERA」を上演する一方で、「ニッセイ・バックステージ賞」を設け、優れた舞台技術者を表彰するなど、舞台芸術を支える人材の育成に取り組んでいます。また、子どもたちの豊かな情操を育むことを願い、当社が協賛する「ニッセイ名作シリーズ」に全国の児童・青少年を無料招待しています。2020年は、コロナ禍により舞台を鑑賞できなかった学校にオペラ・バレエのハイライト集や、物語付きクラシックコンサートを収録したDVDを無償提供しました。



「ニッセイ名作シリーズ 2020」  
オペラ「ルチアーハーリーはある花嫁の悲劇」  
(撮影：三枝近志)

### 【取組詳細】

#### ■日生劇場

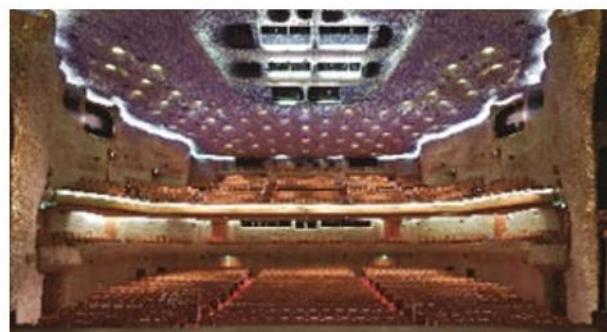
舞台芸術の普及と振興を通じて心豊かな社会づくりに役立てるようにと、1963年に「日生劇場」(東京・日比谷)を建設しました。壁も天井も全て曲面で構成され、壁面はキラリと光るガラスタイルのモザイクで、天井には色付きの石膏に約2万枚のアコヤ貝が貼られ、独特の幻想的な雰囲気を生み出しています。

こけら落としのベルリン・ドイツ「フィデリオ」公演で開場以来、オペラ、演劇、ミュージカル、コンサート等、様々なジャンルの舞台が上演されてきました。また、(公財)ニッセイ文化振興財団が毎年主催する「ニッセイ名作シリーズ」、「NISSAY OPERA」、「日生劇場ファミリーフェスティバル」等には幅広い層の方々にご来場いただいています。

日生劇場は2023年に開場60周年を迎えます。開場以来、数度の大規模改修を経て、現在も開場当時の姿をそのまま残しており、昭和を代表する建築物の一つとして高い評価を得ています。



日生劇場(外観)



日生劇場(客席)

## ■ニッセイ名作シリーズ

(公財)ニッセイ文化振興財団は、子どもたちの豊かな情操を育むことを願い、1964年から小学校6年生をミュージカルに無料招待する「ニッセイ名作劇場」を全国各地で実施してきました。

2014年からは同取組を発展、充実させた新たな「ニッセイ名作シリーズ」とし、オペラやクラシックコンサート、人形劇等の様々なジャンルの舞台作品へ招待しています。

2020年度は新型コロナウイルスの影響で多くの公演が中止となりましたが、11月に日生劇場にてオペラ「ルチア」を上演し約1,400名の中高生を招待しました。また、コロナ禍で舞台芸術に触れる機会を失った子どもたちのために、オペラやバレエの魅力を詰め込んだハイライトDVDや物語付きクラシックコンサートの様子を収録したDVDを制作し、ニッセイ名作シリーズ公演を鑑賞予定だった学校に寄贈しました。

当社は、当初から50年以上にわたり当取組に協賛しています。



【招待者数】

2020年度  
1,400名

※新型コロナウイルスの  
影響で、計画を大幅に  
縮小のうえ実施

57年間に  
約795万名

※2013年度までの  
[ニッセイ名作劇場]  
招待者数を含む

日生劇場Presents

物語付きクラシックコンサート「アリスのコンサート」

寄贈DVDより

## ■NISSAY OPERA

(公財)ニッセイ文化振興財団主催のNISSAY OPERAシリーズを毎年開催しています。国内外で活躍している実力派のオペラ歌手やスタッフによる最高水準の公演を目指しています。



NISSAY OPERA 2019

「トスカ」

(撮影：三枝近志)

### 日生劇場舞台フォーラム



「第27回 日生劇場  
舞台フォーラム 2020」  
オペラ「ルチア～  
あるいはある花嫁の悲劇～」

舞台技術者の育成・支援を目的として、舞台の裏側を紹介するフォーラムを1993年度から毎年無料で開催しています。

2020年度はオペラ「ルチア～あるいはある花嫁の悲劇～」を題材とし、原作「ルチア」翻案への取組みについて、日生劇場公式チャンネル（YouTube）にて解説動画を配信。活躍する演出家や舞台技術者等のパネリストによる舞台解説とバックステージの紹介を行いました。これまで27回の来場者は、約9000名（オンライン視聴約1400名含む）にのぼります。

日生劇場公式チャンネルにて配信  
<https://youtu.be/JHWmWMqQuVg>



NISSAY OPERA 2017/ニッセイ名作シリーズ 2017 オペラ『ルサルカ』が、2017年度(第72回)文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞しました。

## ■日生劇場ファミリーフェスティバル

(公財)ニッセイ文化振興財団設立20周年にあたる1993年から継続的に開催している「日生劇場ファミリーフェスティバル」では、ご家族で本格的な舞台芸術に触れていただけます。クラシックコンサート、音楽劇、人形劇、バレエ等、バラエティに富んだ質の高い舞台作品を低廉な料金でご提供しています。

2020年度は新型コロナウィルスの影響で全ての公演が中止となりましたが、夏休み中にご家族で楽しめる動画を作成し、「おうちで日生劇場ファミリーフェスティバル」として日生劇場ホームページに無料公開し、約10,000名のお客様にご覧いただきました。



【公演数・来場者数】

2020年度  
約10,000名  
が動画視聴  
※劇場公演は中止

28年間に  
416回  
約39万名



「おうちで日生劇場ファミリーフェスティバル」  
日生劇場HP 特設ページにて無料公開  
<https://famifes.nissaytheatre.or.jp/stayhome/>



## ■ニッセイ・バックステージ賞

(公財)ニッセイ文化振興財団は、舞台芸術を裏から支え優れた業績を挙げている舞台技術者を表彰するため、1995年に「ニッセイ・バックステージ賞」を創設しました。華やかな舞台の裏側で舞台づくりに不可欠な仕事をされている方に光をあてるとともに、後継者育成のための一助になればという願いのもと、2020年までに60名の方々を表彰しています。



第26回「ニッセイ・バックステージ  
賞」贈賞式

### 第26回（2020年）受賞者

- オペラ制作・字幕監修  
杉 理一氏（一列目左）
- 特殊小道具製作  
田中 義彦氏（一列目右）

2007年  
「バックステージ支援賞」  
(企業メセナ協議会)  
受賞

## 公益財団法人 日本生命財団

「人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資すること」を目的として1979年に設立され、児童・高齢・環境の三分野を中心に助成事業を進めています。

児童分野では、都道府県の協力のもと、子どもの健全育成に向け活動する全国の団体に物品助成を行っています。また、2020年より、子どもの健全育成に資する研究を対象に、実践的研究助成を新たに開始しました。

高齢分野では、地域包括ケアシステムの展開など高齢社会の課題解決に資する活動・研究に対する助成を行い、シンポジウム開催による助成成果の社会還元を進めています。

環境分野では、持続可能な社会の実現に向け学際的総合研究を中心とした研究助成を行い、その成果は書籍出版などを通じて広く社会に還元しています。

### 【取組詳細】

#### ■児童・少年の健全育成助成（物品助成）

（公財）日本生命財団は、活力あふれる真に豊かな社会の実現に向けて、次代をになう子どもたちがたくましく心豊かに成長することをめざしています。児童・少年の健全育成には、地域社会を構成する住民や諸組織が手を携え、地域活動の一環として、子どもたちの生きる力を育んでいくことが必要になっています。

そこで、当財団では、都道府県のご協力のもと、地域活動として定期的・継続的に実施している子どもたちが行う自然体験・生活体験活動、仲間づくりや文化の伝承活動、地域の子育て応援活動に取り組む民間の団体に対して、都道府県知事のご推薦に基づいてその活動に必要な物品を助成し、活動の輪を広げています。



【助成団体数・金額】

2020年度  
262団体  
約1.2億円

42年間で  
13,662団体  
約86.2億円

小城桜武館少年剣道クラブ（佐賀県）

[助成物品：剣道用具一式]

## ■児童・少年の健全育成助成（実践的研究助成）

(公財)日本生命財団は、前述の児童分野の物品助成を長年続ける中で、子どもの健全育成に資する研究の役割・重要性について認識を深めてきました。財団設立40周年を機に新たな助成制度の検討を進め、2020年度より「実践的研究助成」と称し、研究者と教育・保育、医療・保健・福祉現場の専門職等実践家が協働して行う研究への助成を開始することとなりました。

当助成は、「子どもを巡る『真のウェルビーイング』の探求」を基本テーマとし、子どもたちを取り巻く多様な社会的課題の解決に資する研究を推進するとともに、研究成果・提言の普及にむけたシンポジウム・ワークショップの開催等にも注力していきます。



【助成件数・金額】

2020年度

16件

1,901万円

新助成開始記念シンポジウム  
(2019年11月、日本生命本店)

### ■募集研究課題に関するキーワード（一部抜粋）

精神の発達	生涯発達(ライフスパン)、愛着、自己肯定、自己形成、規範意識、基本的な生活習慣づくり、食育、自然体験、運動、人間関係、心の健康教育、社会体験・貢献、メディア、情報、多文化理解
身体の発達	親子関係の再構築、里親、あらたな家族のあり方
社会性の発達	
新たなファミリー・ネットワーク	
心身の発達 健康の問題	知的障がい、身体障がい、精神障がい、発達障がい、行動障がい、慢性疾患、難病、アレルギー疾患
家族の課題と病理	虐待、ネグレクト、マルトリートメント、家庭崩壊、DV、ヤングケアラー

## ■高齢社会助成

(公財)日本生命財団は、1983年度より、将来の高齢社会を見据えた先駆的・実験的な事業への助成に取り組んできました。

これからの「人生100年時代」を活力あふれるものにするためには、自助・互助・共助・公助が一体となって人々を支え合う社会の構築が喫緊の課題となっています。

当財団は、この課題の解決に向け、継続的自立生活を支える地域包括ケアシステムの展開、多世代交流につながる事業や研究に対して助成を行うとともに、その成果をシンポジウム等を通じて広く社会に還元していきます。



【助成件数・金額】

2020年度  
11件  
1,608万円

38年間で  
581件  
約16.4億円

第33回高齢社会シンポジウム  
(2019年12月、イイノホール)

## ■生き生きシニア活動顕彰

高齢社会を迎えるなか、元気で活力にあふれた高齢者の地域貢献活動が注目されています。

(公財)日本生命財団では、都道府県のご協力のもと、高齢者が主体となって行う地域貢献活動に取り組む民間の団体に対して、都道府県知事のご推薦に基づいて顕彰を行い、活動の輪を広げています。



【顕彰団体数・金額】

2020年度  
210団体  
1,050万円

14年間で  
2,597団体  
約1.2億円

壬生おもちゃ病院（栃木県）

## ■環境問題研究助成

(公財)日本生命財団は、1979年度の財団設立以来、「人間活動と環境保全との調和」を基本テーマとした環境問題研究助成を行っています。なかでも、研究者とNPO・地域住民等の実践活動者が協働して推進する学際的な研究への助成を特色とし、その研究成果はワークショップの開催や成果出版を通じて社会に還元しています。

2021年1月には、生態系の防災・減災機能を活用する「生態系減災(Eco-DRR)」に関する助成研究の成果がまとめられ、研究チームによって『生態系減災 Eco-DRR』が刊行されました。

これからも、自然環境に支えられた持続可能な社会の構築に向けて努力を続けていきます。



第35回環境問題ワークショップ  
(2020年1月、慶應義塾大学)



2020年度成果  
出版物  
『生態系減災  
Eco-DRR』

### 【助成件数・金額】

2020年度  
28件  
4,000万円

42年間で  
1,253件  
約28.9億円

## ■博物館展示案内出版助成

(公財)日本生命財団は、地域文化の振興や子どもたちの理解を深め青少年の文化教育に資するため、1982年度から各地の博物館の協力を得て展示案内書を出版し、当該博物館をはじめ所在地県内の小・中・高等学校や図書館等に寄贈しています。

2018年度には、当助成を通じた博物館の充実・発展への取組みが評価され、日本博物館協会から博物館協会創設90周年特別表彰を受賞しました。



2020年度助成「愛媛県総合科学博物館」

### 【助成件数】

39年間で  
全国各地の  
65館

## 公益財団法人 ニッセイ聖隸健康福祉財団

高齢者が健康で安心して暮らせるまちづくり事業を具現化すべく、1989年に設立され、総合シルバーサービス施設「ニッセイエデンの園」を運営しています。

現在、「ニッセイエデンの園」は奈良・松戸の2カ所にあり、有料老人ホーム、疾病予防運動センター、診療所、高齢者総合福祉センター、在宅介護サービスセンターなどを整備した、高齢者の健康・福祉のための総合施設として厚生労働省の「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業※」の認定を受けています。両施設とも地域で暮らす高齢者の健康と生きがいの増進および高齢者が安心して生活できるまちづくりに寄与しています。また、豊かな高齢社会システムづくりに貢献するため「介護福祉士等養成のための奨学金助成」「高齢者に対する総合的な生活サービスに関する調査研究活動」も積極的に進めています。

※高齢者が安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりを実現させるために1989年からスタートした厚生労働省の施策

### 【取組詳細】

#### ■ニッセイエデンの園

(公財)ニッセイ聖隸健康福祉財団が運営する「ニッセイエデンの園」(奈良:1992年開園、松戸:1997年開園)は、有料老人ホーム、疾病予防運動センター、診療所、高齢者総合福祉センター、在宅介護サービスセンター等を整備した、高齢者の健康・福祉のための総合施設として、厚生労働省の「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」の認定を受けています。両施設とも地域で暮らす高齢者の健康と生きがいの増進および高齢者が安心して生活できるまちづくりに寄与しています。



奈良ニッセイエデンの園  
(有料老人ホーム 外観)



松戸ニッセイエデンの園  
(有料老人ホーム 外観)

厚生労働省  
「ふるさと 21 健康長寿のまちづくり事業」  
認定

#### ■介護福祉士等育成の奨学金助成

(公財)ニッセイ聖隸健康福祉財団では、1989年から介護福祉士志願者を対象に奨学金助成を行っており、その後理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の志願者にも対象を広げています。また、2020年からは介護福祉士を目指す外国人留学生を対象とした奨学金制度も新設し、福祉を担う方々の育成に取組んでいます。

#### 【給付実績】

2019年度  
49名  
1,188万円

31年間に  
643名\*  
3億2120万円  
\*給付を受けた卒業生

「緑の保護、育成に努め、もって幅広く環境の保全に資する」ことを目的に、1993年に設立され、「森林づくり」「森林を愛する人づくり」の活動をしています。

「森林づくり」では、1992年からこれまでに植えた苗木は137万本を超える、「ニッセイの森」は46都道府県の203ヵ所（467.9ha）に広がり、森林環境の保全に取り組んでいます。「森林を愛する人づくり」では、ふれあい森林教室・森の探検隊などの「ニッセイの森」を活用した森林のめぐみに触れる活動のほか、「ニッセイの森」の間伐材から作製した「樹木名プレート」や各学校オリジナルの「学校の木のしおり」を学校などへ寄贈しています。また、オンラインを活用し、「ニッセイ緑のオンライン環境講座」、「ニッセイの森」の紹介、「木工クラフトの作り方紹介」などの発信をしています。



「樹木名プレート」と「学校の木のしおり」

#### 【取組詳細】

##### ■ 「学校の木のしおり」「樹木名プレート」

(公財)ニッセイ緑の財団では、「ニッセイの森」の間伐材で作成した「樹木名プレート」を学校や企業・団体等に寄贈する活動を2017年度から行っています。

樹木名プレートの作成や取り付けを行うを通じ、身近にある自然に関心を持ち、身近な自然環境への理解を子どもたちが深め、植物や自然を親しむことで、森林を愛する人が増えていくことを目指しています。2019年度からは各学校オリジナルの「学校の木のしおり」を提供する取組も行っています。



#### 【贈呈実績】

2020年度  
389校  
67,586名

4年間で  
687校  
92,309名

#### 「学校の木のしおり」



校庭にある樹木から8種を選んでいただき、しおりを作成し、提供しています。写真や解説、観察の視点をまとめた内容になっており、自然観察などの教育活動で活用いただけます。



## ■ ドングリ学校

(公財)ニッセイ緑の財団は、森林を育てていくことの大切さや持続可能な社会について学ぶ機会を提供するため、自治体やNPO法人と協力し、「ドングリ学校」として、小学校の授業でドングリから育てた苗木を公園等へ植樹する実践的な森林環境教育を実施しています。2013年度からは復興支援の一環として、育てた苗木を被災地で植樹しています。ドングリ学校は、2016年度「第10回キッズデザイン賞」を受賞しました。



【参加者数】

2020年度  
155名

18年間に  
5,473名

## ■ ふれあい森林教室・ふれあい木育教室

(公財)ニッセイ緑の財団では、宮城県利府町にある「森から考えるESD学びの森」において、被災地で活動する団体等と協力して、2011年度より地元の未就学児童・小中学生とその保護者を対象とした森林整備体験・自然観察等を行う「ふれあい森林教室」を開催しています。また、2018年度からは、当森で採取された間伐材を使った木工作を体験できる「ふれあい木育教室」を開催しています。



【参加者数（ふれあい森林教室）】

2020年度  
411名

10年間に  
3,660名

ふれあい森林教室



【参加者数（ふれあい木育教室）】

2020年度  
19名

10年間に  
1,440名

ふれあい木育教室

## ■ グループ会社による社会貢献活動

日本生命グループ各社では、それぞれの特徴を生かして様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

### 大樹生命保険株式会社

大樹生命保険株式会社（以下、大樹生命）は、“緑・自然を守り、親から子へと美しい緑の街を伝えたい”という願いを込めて、1974年から「苗木プレゼント」に取り組んでいます。緑を大切にし、次の世代に自然を残し伝えていくという大樹生命の考え方賛同する方に対し、苗木を贈呈する取り組みです。年度や地区ごとに異なる樹種をプレゼントしています。

開始から47年間で累計517万本超の苗木を贈呈し、全国各地で心地よい木陰をつくりながら、周辺環境の保護などに役立てています。



### ニッセイ情報テクノロジー株式会社

ニッセイ情報テクノロジー株式会社では、学校現場で進む「プログラミング的思考（論理的思考）」の育成をサポートするため、社員が講師となり、オリジナルで作成した教材を用いた小学生向けプログラミング授業を行っています。プログラミングの面白さ・ものごとを成し遂げた達成感を味わってもらうとともに、身近な生活の中でコンピュータが活用されていることや、問題解決には具体的な手順があるといったことなどに対する気付きを得ることを狙いとしています。

事業所がある大阪・東京・仙台で開催し、これまで239名の児童が参加されました。オリジナルプログラミング教材は、ニッセイ情報テクノロジー株式会社のホームページでダウンロードすることも可能です。



### 日本生命・グループ会社・財団法人共催

日本生命と、当社グループ会社・当社設立の財団により、多様な事業フィールドやネットワークをフルに活用して「ニッセイグループ夏休み自由研究フェス！」を開催しています。参加した子どもたちは、各社の特色を活かしたプログラムを通じて、普段できない体験や自由研究のヒントを見つけることにつなげていただきました。



## 国外グループ各社

国外のグループ会社でも社会貢献活動に取り組んでいます。

### < ニッポンライフ・インディア・アセットマネジメント (Nippon Life India Asset Management Limited) >

- EdelGive Foundationのプロジェクトの1つに拠出。（拠出予定額は1,000万ルピー。2020年12月末時点で810万ルピーの拠出済。）

当プロジェクトは、インドのグジャラート州の貧困層の教育レベルの向上、女性活躍推進、生活水準改善を主なミッションとし、拠出金を基に幅広い社会貢献活動を行っており、例えば、農業地域において太陽エネルギーを動力源とした灌漑設備の設置等を行っている

### < 米国日本生命 (Nippon Life Insurance Company of America) >

- 米国日本人医師会への寄付（\$ 10,000）

### < バンコクライフ (Bangkok Life Assurance Public Company Limited) >

- 財団・病院への寄付（コロナ患者の対応をしている3法人へ、取締役報酬の一部（総額50万バーツ）を寄付）

### < セクイスライフ (PT Asuransi Jiwa Sequis Life) >

- 医療従事者支援を目的に、ジャカルタ市内の政府指定感染症病院（8カ所）の勤務者を対象とした資金援助を実施
- ジャカルタ等の27カ所で、無料で抗体検査を提供（累計6,000人以上が実施）

### < グランド・ガーディアン・ニッポンライフ・インシュアランス (Grand Guardian Nippon Life Insurance Company Limited) >

コロナ対策のCSR基金として、3億MMK（約2,100万円）を設定し、当基金を財源とした以下の取組を実施

- ヤンゴン市民病院への寄付（医療機器購入資金として、3,000万MMK（約210万円）を寄付）
- ヤンゴン市内の医療従事者310名への、医療保険の無償提供
- 医療保険契約者に対し、コロナ罹患時に最大60万MMK（約5.6万円）、ICU治療時・死亡時にそれぞれ100万MMK（約7万円）を支給する拡大給付の実施

### < 長生人寿 (長生人寿保險有限公司) >

- コロナの影響を最も受けている湖北省（武漢）に対し、本部より40万元の寄付を実施
- 各分公司においても、積極的且つ自発的な寄付活動を展開



バンコクライフによる寄付



GGNL（ミャンマー）による寄付



長生人寿（成都本部営業二区）によるマスク・アルコールなどの物資の寄付